

令和6年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
事業目標1 魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。				
<p>【評価する点】 全体的に記述が抽象的であり、良いとも悪いとも評価できない。 たとえば、「寄贈に頼らない主体的な収集活動の実現を目指し、継続的な作品購入のスキームとその財源の確保に関して市との連携体制を構築しました」という記述も、言語明瞭だが意味不明瞭。 また、たとえば、「美術品および関連資料を適切に保管します」という取組内容に関して、目標「実施」、毎月「★実施」という評価はいかがなものか。このような内容であれば、記述する必要は無いのではないか。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 「コレクションの活用」に関しては、収蔵作品全般に対して、当該年度に自館または他館で展示された作品の数と割合を提示していただきたい。 「データベースの充実」に関しては、収蔵作品全般に対して、ウェブサイトで画像を公開している作品の数と割合を提示していただきたい。また、その多言語情報の割合についても提示していただきたい。</p>	<p>【評価する点】 多くの寄贈に加え、新たな作品を購入できることは、(現下の日本のミュージアムの状況からみると)特に高く評価できる。あわせて、トリエンナーレの作品購入ができたことも魅力的なコレクション充実につながるものと考える。 文化庁による文化観光拠点計画を適切に活用し、豊富なコレクションデータを公開したこと、多言語による作品紹介など基盤整備が進んだことも高く評価したい。今後は、既に連携が決まっている韓国を皮切りに、国際的な共同企画の推進も期待される。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 新たな作品購入の必要性も理解できるが、美術館のコレクション形成に大きく貢献してきた寄贈は今後とも引き続き受け入れていく必要があると思う。一方で、改修したとはいえ、収蔵庫には物理的な限界もある。今後は、収集基準について改めて検討することも必要になるのではなかろうか。 なお、トリエンナーレを拝見して、現代美術は従来の美術品の概念を超越し、その素材やコンセプトによっては、これまでのように「収蔵」することになじまないものもあるように思われた。こういったものは、デジタルで記録するということになるのだろうか。魅力的なコレクションはこれからも美術館の中核的な価値の源泉となるだろうが、今後は「収蔵」の在り方についても改めて考える必要もあるのではなかろうか。</p>	<p>【評価する点】 ・横浜トリエンナーレの出品作品を購入するなど、美術館としてあるべき形でのコレクション形成ができた。 ・画像データを公開し、多言語での作品解説を提供している事は、インバウンドのお客様へのサービス向上だけでなく、アーカイブを構築するうえでも重要だと思われる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・トリエンナーレ関係の作品を収集したことは素晴らしいが、3点では少なすぎる。 ・作品収集予算は単年度ではなく、ある一定の購入予算を毎年恒常に措置されることが望ましい。それにより、計画的なコレクション形成が可能になる。 ・収蔵庫の逼迫を理由に重要な大型作品等の購入・寄贈を回避するのは本末転倒であり、それによって収蔵スペースが足りなくなるならば、多くの美術館がすでに実行しているように、郊外に収蔵スペースを確保するなどの措置を取るべきである。 ・文化庁等の補助金に頼らない画像データや作品解説のさらなる充実を伴うデータベースの構築を望む。</p>	<p>【評価する点】 定性指標、定量指標、ともに年度目標を達成できています。 「みなとモデル」の理念に沿ったリニューアルオープンとなりました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 地元企業からの寄付による作品制作・購入がありました。今後も地域の企業等との連携が進むよう、作品の活用、広報を展開してもらいたいと思います。 文化基金の積立残高が低水準であることを懸念します。ネーミングライツに関し、市と連携した取り組みがみられましたが、今後も市との政策協議を通して、文化基金の拡充に努められることを期待します。</p>	<p>【評価する点】 ・継続的な作品購入のスキームとその財源の確保に、横浜市と連携体制を構築されたことを評価します。市の信頼を得て基盤も安定し、未来への目標に向けて一層推進されますよう期待しています。 ・コレクション画像のウェブサイト公開を評価します。どこからでも来館できる「開かれたみなと」としての役割を果たせました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・子ども・若者世代がもっと気軽に美術館の扉を開けられるような機会があれば、未来への継承にもつながると思います。無料エリアでのイベントや壁面の活用等、魅力的なプログラムを期待します。</p>

令和6年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
事業目標2 質の高い多様な展覧会の実施を通じて新たな美術の価値を創造し、来館者の裾野を拓げます。				
<p>【評価する点】 「第8回横浜トリエンナーレ」に関しては、「出展作家の3分の1、31組が日本で初めて紹介する作家」とのこと、これは北京を拠点とするアーティスティック・ディレクターを選定したことの効果と評価できる。 また、横浜をテーマとしたリニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」については、発見と学びの多い展覧会であり、高く評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 「新規来館者数が総来館者数に占める割合」について、データを把握していく必要はあると考えるが、目標が「20%」である必然性は無い。</p>	<p>【評価する点】 第8回トリエンナーレでは多くの鑑賞者に対し、現代美術の醍醐味を伝えることができたように思われる。また、「おかえり、ヨコハマ」他、しっかりしたコンセプトのもと、充実したコレクションを活用した展覧会を開催、来館者に大きな満足度を与えた点、評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 大規模改修後スムーズが立ち上がりと思うが、閉館により認知は少し下がったと思われる。また、過去の入館者数の推移からは、展覧会の内容にもよるが、かなりの変動がある。良いものであればあるほど、より多くの市民に来館してもらうことが望まれる。アンケート調査も実施しているので、結果を十分に検証し、広報だけでなく、アウトリーチなど館外活動も含め、戦略的な展開を期待したい。</p>	<p>【評価する点】 ・中国人のアーティスティック・ディレクターを招聘したことにより、有力ギャラリーや美術マーケットに頼らない、国際現代美術祭の名にふさわしい、内容が充実したビエンナーレになった。特にウクライナの作家の作品はこのトリエンナーレを象徴していて、現代美術展が観客と共に現代を考える機会を与えていた。同時に、社会・政治的な作品が多く評価されている海外の状況と、それとは切り離された日本のガラパゴス的状況を、皮肉なことに浮き彫りにした。一方で富山妙子の小規模個展を企画の一部として実施できたことは、日本美術史の再構成の一助となり、海外への発信ともなったことは評価に値する。 ・「おかえり、ヨコハマ」展はリニューアル・オープンを記念するだけあって、様々な切り口からヨコハマを捉え、充実した展覧会だった。 ・「日韓現代美術」展の開催に向けて、韓国国立現代美術館と協同企画・巡回が決定したこと。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・定性評価は必要なこととして、定量評価は不要だと思う。数を稼ぎたければ、新聞社やテレビ局が収益のために実施しているアニメ、建築、ファッションの展覧会を買い取って実施するか、海外有名美術館をうたったブロックバスター展をメディアと共に開催すればよく、美術館の評価やるべき姿とは関係ない。ポピュリズムや数に惑わされない、真に横浜美術館ならではの事業を望む。</p>	<p>【評価する点】 定性指標、定量指標、ともに年度目標を達成できています。 横浜トリエンナーレ、写真コレクションという当館の強みが活用されており、首都圏美術館マーケットにおける当館のポジショニングにも貢献しています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今回のトリエンナーレを2回鑑賞しましたが、海外からの来館者も多かった印象があります。こうした海外来館者の属性、嗜好等の分析を、今後の開催に活かしてもらいたいと思います。 ギャラリー8・9の更なる活用を期待します。</p>	<p>【評価する点】 ・第8回トリエンナーレの実績を評価します。多様な人々の沈められた怒りが現代アートの光を浴びて鮮明に浮かび上がってくるようでした。併せて、場を移してのトリエンナーレとなるホームページでの発信も評価します。 ・無料空間での展示や子どものアートひろば「はらっぱ」常設を評価します。出入り自由。予約なし。無料で休憩できる。安全な環境。こうした場所があるという安心感は、子育て世代の美術鑑賞参加への大きなエールとなりました。 ・「おかえり、ヨコハマ」の開催を通して、横浜の歴史を多くの来場者に伝え、過去と現在に人と街に橋を架ける役割を果たしてくださったことを評価します。 ・横浜美術館外壁の変化し続ける展示を評価します。視線から関心・興味へと繋がっていくことが期待できました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・「きっかけがない」「絵画や美術品に興味がない」「敷居が高い」「入場料が高い」。美術館へ足を運んだことのない人たちの思い込みを、一つでも打破できるような取り組みを期待します。</p>

令和6年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
事業目標3 美術と人々を様々な糸口でつなぎ、生きる力を培います。				
<p>【評価する点】 新設された「子どものアートひろば『はらっぱ』」等において、「じゅうエリア」を活用して、さまざまなプログラムを提供した点は高く評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 評価指標は、参加者数ではなく、参加者またはその保護者等の満足度の方が適切ではないか。</p>	<p>【評価する点】 子供のアートひろば「はらっぱ」をはじめ、カフェや図書室、無料ゾーン（じゅうエリア）での展示など、美術館全体が広く市民に開放され、アクセスが格段に向上したと思われる。また、「おかえり、ヨコハマ」展でも、実際に足を運んだ観覧者が増え、リニューアル後、非常に良い滑り出しどなった。 子どものアトリエ事業などこれまでの実績を活かしつつ、子どもや子育て世代をメインターゲットの一つと位置付けたことも時宜を得たものと考える。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 リニューアルオープンのモメンタムを失うことなく、今後の活動につなげていってほしい。横浜市は市域が大きく、地域的・経済的格差やそれぞれ固有の地域課題もありそうである。こういったことに向き合うためのアウトリーチは今後も重要な活動になると思われる。アウトリーチは、ノウハウや戦略が必要で、コスト面でも地味に大変な活動だが、休館中に培った知見も生かしつつ、中長期的視点で継続していくほしい。</p>	<p>【評価する点】 ・横浜美術館の教育普及事業や取り組みは充実している。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・職員構成についてはほとんどが常勤職員であり、他の美術館のような有期雇用問題がなく、職員を育成する観点からも継続していくほしい。ただ、美術図書室の司書は非常勤もしくは有期雇用の職員が大半を占めているのは、図書室の重要性を考えても理解できない。速やかに常勤化してほしい。 また、横浜美術館も1989年に開館してすでに36年経過している事を考えれば、将来的には他館から館長を招聘する落下傘型の人事ではなく、横浜美術館のたたき上げの学芸員が館長に抜擢されるのが望ましい。すでに神奈川県立美術館や金沢21世紀美術館、国立国際美術館や愛知県立美術館の前館長など、そうした人事を実施している。</p>	<p>【評価する点】 定性指標、定量指標、ともに年度目標を達成できています。 じゅうエリア、美術図書室が整備され、それらを活用し、多様な来館者に向けたプログラムが実施されていることが確認できました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 レクチャーホールの利用者の意見を集め、今後のホール運営に反映させていただければと思います。</p>	<p>【評価する点】 ・来場者が1万人越えの「子どものアートひろば『はらっぱ』」の開設を評価します。楽しかった思い出が美術好きの子どもの増加につながることを期待します。 ・多様な対象に向けてのアクセスプログラムを実施し、多様な人々が共にアートを語り、感じ合う豊かな時間を提供してくださったことを評価します。ぜひ継続を願います。 ・鑑賞サポートツールの企画と制作を評価します。美術館でのマナーや楽しみ方が分かりやすい表現で無理なく伝わりました。 ・コレクション展・企画展関連の鑑賞プログラムやワークショップ等、教育機関と連携した教育プログラムを評価します。もっと多くの子どもたちへ美術の魅力を発信し続けてください。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・放課後キッズクラブへのアウトリーチを、NPOの居場所などに広げていくことを期待します。増え続ける不登校児童・生徒にとって、新しい自己表現法を知ることは、生きる力を育うことになります。</p>
事業目標4 諸活動の基盤を整備し、社会情勢の変化に対応できる施設運営を行います。				
<p>【評価する点】 施設運営に関する内容なので、「評価」というよりは、「ちゃんとやっているか」の確認で良いと考える。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 専門人材に関しては、単に人数を増やすのではなく、専門性の向上に配慮されたい。具体的には、自館の紀要や学会誌等への研究成果の寄稿等を奨励していくことが考えられる。</p>	<p>【評価する点】 多様なニーズと課題を抱える市民に、美術館ができるだけ開放するという方向で、一体感を持った活動及び基盤整備ができたことを高く評価したい（「おかえり、ヨコハマ展」、じゅうエリアでの展示や空間設備の開放、子どもアートひろばはらっぱ、コレクションのアーカイブ化など）。さらに、マスメディアからSNSに至るまで多様なメディアを活用した発信も今後につながるものと期待する。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 来館者アンケートの分析結果も活用した取り組みを強化してもらいたいが、一方で、来ない市民もかなりいることが推測される。こういった人々への対応をどうするのか、検討されることを望みたい。</p>	<p>【評価する点】 ・リニューアル・オープンに際して、子育て世代が美術館に来やすくなるような取り組みやお客様がさまざまな形でくつろいで美術館を利用する仕組みが取り入れられている。 ・特に1Fの大階段オープン・スペースに設営された、車いすでも利用できる導線は、常時利用できるようすべきである。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・引きつづき、特別展目的でなくともふらっと立ち寄ることのできる美術館を目指してください。</p>	<p>【評価する点】 定性指標、定量指標、ともに年度目標を達成できています。 リニューアルの前後の館内の変化を実感した来館者は多いと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 鑑賞にあたり、混雑の状況や混雑予想の情報のニーズは高いと思います。対策はとられていると思いますが、必要に応じて情報提供できる体制を確立してください。</p>	<p>【評価する点】 ・適切に施設の管理にあたられていることが、事故件数ゼロに表れています。評価します。 ・メディアで横浜美術館の紹介を目にすることが多かったです。オウンドメディアへのリーチ数も増えていて発信力の強さを感じました。評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・大階段のバリアフリーへの対応と安全で明るくやわらかな空間の維持に、一層取り組まれますよう期待しています。</p>

令和6年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
事業目標5 横浜市の中核的な文化拠点として、地域の様々な施設や団体と連携し、地域社会のポテンシャルの向上に貢献します。				
<p>【評価する点】 横浜市、横浜観光協会、横浜みなどみらい21と協力して、文化観光拠点計画の取組を着実に推進した点は評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 行政評価でも指摘されている通り、令和6年度の首都圏認知率は36.2%となり、昨年度と比べて約5ポイント、長期休館に入る前と比べると約13ポイント低下している点については、認知率を必ずしも「50%」とする必要があるかどうかは疑問であるものの、低下傾向は是正したい。</p>	<p>【評価できる点】 美術館として多くの多様な市民に鑑賞や学び、気づきの機会を提供できたことのほか、文化庁の助成も受け、文化観光拠点計画に基づく整備を進めたこと、ユニークベニューとしての活用など、美術館の機能を地域社会に生かしていく試みなども評価できる。</p> <p>【更なる取り組みに期待する点】 地域の企業や福祉、教育等、様々な分野において、美術館の持つ専門人材、施設設備やノウハウを生かしていくことが求められる今日、美術館の本務、必要とされるコストともバランスを取りながら、積極的に進めてほしい。 優れた展覧会やイベントを、より多くの市民に体験してもらうという観点から、まずは認知度を上げ（知ってもらう）、来館につなげることに注力してほしい。</p>	<p>【評価する点】 ・首都圏でこれだけ多くの文化施設やイベントが開催されている状況のなかでのリニューアル・オープンであり、多くの選択肢がある中で、ある意味でとても難しいテーマに取り組んだトリエンナーレや「おかえり、ヨコハマ」展に多くの人が来館し、企業や団体とも充実した連携を組み、その展覧会の意味が共有されたことは、もっと評価されてよい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・古くから海外から/への日本の入口/出口である「横浜」という場所に相応しい、海外との連携事業を期待する。</p>	<p>【評価する点】 周辺諸施設、企業、団体と連携した活動により、MM地区の活性化に取り組んでいることが確認できました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 定性指標、定量指標が、令和9年度目標値の水準に近づくよう取り組みを進めてください。</p>	<p>【評価する点】 ・横浜ゆかりのクリエーターの商品や横浜美術館オリジナルグッズの展開などに取り組まれ、視認性の向上に努められたことを評価します。 ・地域企業や他の団体と連携し、様々なイベントにも人々の日常に芸術を届けることで、心の豊かさや創造性を育み、地域全体の文化的な活力とつながりを深めました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・地域に密着した美術館として、コミュニティの社会課題にも寄り添い、取り組む姿勢を期待します。みなどみらいの企業やNPO、商業施設が協働で取り組んでいる2月恒例のピンクシャツデー（多様性尊重といじめストップのキャンペーン）への参加もご検討ください。 ・孤立しがちな障がい者や高齢者を含む多様な人に向けてのアプローチも期待しています。地域の人たちが笑顔で芸術に親しむ姿は、子育て世代への安心につながります。</p>

令和6年度横浜美術館 指定管理業務評価表（外部評価）

太下委員	垣内委員	笠原委員	丸山委員	吉富委員
総括				
令和6年度は、新館長の着任、大規模改修のための長期休館を経て、リニューアル・オープン、そして、ヨコハマトリエンナーレの開催、「おかえりヨコハマ」展開催と、大きな事業が続いたので、それらへの対応が中心となつたものと考えられる。その意味では、美術館としての真価の評価は、今年度からが本番になる。	<p>令和6年度はリニューアルオープンの年で、全般的に良好な滑り出しがあったと思われる。特に多様で多彩なコレクションを「おかげり、ヨコハマ」として展覧会を開催、改めて美術館の存在意義を社会に発信できた。また、国の助成を得て、文化観光の拠点としての基盤整備も一定程度進んだものと思われる。メディアカバレッジも一定程度あり、情報発信もできている。今後は、新たな需要の掘り起こしも含め、指針として掲げる「みなどモデル」が端的に示す、だれにも開かれた美術館という基本コンセプトを大切にしながら、まずはできるだけ多くの市民の体験の場となることを目指してほしい。</p> <p>現下の財政状況を考えると、美術館自体の社会的価値を高めることが、公的支援だけでなく多様な資源調達につながるという視点も重要と思われる。展覧会の開催、じゅうエリアの活用による来館者増、特に市民への訴求がより一層求められるだろう。そのうえで、美術館の掲げるビジョンや活動に賛同する企業、個人等の支援も集約できるような仕組みを強化していくとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポピュリズムに惑わされない、質の高い展覧会や教育普及事業、海外美術館との連携等を実施されている事はより一層評価すべきである。そうした事業を継続するための、海外研修等の仕組や予算措置をして、文化的な指標でモデルとなるような美術館になることを望む。 ・トリエンナーレの作品を購入してコレクションに加えることができたのは何より素晴らしい。が、3点では少なすぎる。毎年計画的にコレクションを形成できるような予算措置をされてしかるべき。 ・この委員会についても当てはまるが、デジタル化を推進して、なるべく紙を使わない業務実施が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズにリニューアルオープンできたことを高く評価します。 ・課題としては、当館の今後の持続的な運営の観点から、作品購入の基盤となる文化基金の積立水準が低調である点が懸念されます。「政策協働方式」という指定管理方式の実効性を担保するためにも、とくに財務面に関して、横浜市と財団の政策協議の場を活用していただきたいと思います。 ・横浜市と財団の政策協働の仕組みをさらに充実させるうえで、令和7年4月からの公益法人制度改正実施は重要な契機になりうると思います。社会環境の変化に柔軟に対応することを目的とする制度改正であり、とりわけ財務面での弾力的な運用が可能(中期的な収支均衡の観点の導入)になったことは、美術館運営をサポートする要因になると考えます。 ・公益法人制度の改正にともない、公益法人会計基準も見直されています。財団として、新基準に従った開示資料を作成するにとどまらず、市民を始めとするステークホルダーに理解されやすい開示資料を作成することが望ましいと思います。その点、行政側の現在の長が数理統計・データ分析の専門家でもあることを反映したためか、横浜市の財政関連の開示資料の理解しやすさは、「財政ダッシュボード」にみられるように、大きく改善されたという印象を私はもっておりまます。公益財団法人の関連規制を遵守しつつも、財団の財務の可視化についても配慮されることを期待します。 	<p>「子どもと子育て世代」をターゲットに設定し、横浜美術館の特色を打ち出していくという強化項目が、より強く推進されることを願っています。私が関わっている神奈川子ども未来ファンドは、子ども・若者、子育て中の保護者に寄り添う県内のNPOへの伴走支援や助成支援の活動をしています。</p> <p>8,7人に1人が相対的貧困にあり、不登校もいじめ認知件数も増加しています。食の貧困ももちろんですが、心の貧困に陥っている子どもたちも多くいます。ギャラリーの1枚の絵との出会いが、心の飢えを癒し、豊かさを蓄え、未来の扉を開ける勇気に変わる…。そんな出会いを応援する美術館であってほしいと思っています。</p>

横浜美術館 令和6年度指定管理業務・行政評価シート

行政評価

【事業目標1】魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。

【評価できる点】

- ・199点の寄贈に加え、昨年に引き続き作品を購入し、横浜美術館全体の魅力向上につながるコレクションの充実に努めました。特にトリエンナーレの作品を購入したことはレガシーを残す意味でも重要であり、かつ「おかえり、ヨコハマ」展で早速展示するなど、その魅力を広く来館者に伝えました。
- ・文化庁による文化観光拠点計画の最終年にあたる年でしたが、補助金を活用し、昨年に引き続き画像データの公開を進めたほか、コレクションの日英両語による作品解説の提供も計画的に進め、着実に目標を達成しました。美術館を訪れる方や、日本語がわからない方に対してもコレクションの魅力を伝えられるようになったことを評価します。
- ・「日韓現代美術展」の開催に向けた韓国国立現代美術館との共同企画・巡回が決まったことをコレクション活用の観点から評価します。

【より一層の取組を期待する点】

- ・大規模改修によって収蔵庫の面積は増加したものの、作品の増加に伴う収蔵庫スペースの逼迫はこれからも懸念されます。バランスを勘案しながら適切な管理を行ってください。
- ・文化基金積立の継続的積立と安定的運用に関するスキーム構築について、引き続き各グループ一丸となったご協力をお願いします。

【事業目標2】質の高い多様な展覧会の実施を通じて新たな美術の価値を創造し、来館者の裾野を拡げます。

【評価できる点】

- ・第8回トリエンナーレでは現代美術を通して、海外の社会的課題や文化を伝えられたこと、また無料空間での展示によって、多くの人が美術に触れるきっかけを作れたことを評価します。
- ・横浜をテーマとしたリニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」の開催を通して、展覧会来場者満足度や新規来館者率といった目標が達成されました。
- ・グランドギャラリー等の無料空間の整備やコレクション展示を通して展覧会来場者以外にも美術作品に触れる機会を増やし、鑑賞者の裾野を拡げました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・文化観光拠点計画では年間来場者目標を指標よりも高い100万人としていました。R6年度で本計画は終了となります、今後さらに多くの方に訪れていただける取り組みを期待します。
- ・来館者の評価や意見を踏まえ、昨今の価値観の多様化等に柔軟に対応した展示づくりに努めることで、幅広い層への訴求と来館者からの高い満足度を得ることを引き続き期待します。
- ・現在アンケートは紙・日本語での用意となっており、今後の対応について引き続き検討をお願いします。

【事業目標3】美術と人々を様々な糸口でつなぎ、生きる力を培います。

【評価できる点】

- ・第8回横浜トリエンナーレで開設された「こどものアートひろば『はらっぱ』」では、子育て層をはじめ美術館からのアプローチが届きにくかった方々にアプローチし、1万人以上の来場者数の計上や多くの来館者からの好意的なご意見の獲得という成果が得られました。
- ・普段美術館と接点のない子どもたちに芸術体験を届けた放課後キッズクラブへのアウトリーチや、障害のある方や多様な背景をもつ方の観賞をサポートするツール制作・アクセスプログラム実施といった施策を通して、さまざまな人たちに美術の魅力を届ける役割を果たしました。
- ・「こどもミッションシート」や「ソーシャルストーリー」によって、安心して美術館を楽しめる環境づくりに努めました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・R7年度より通年での開館となるため、休館中に蓄積されたアウトリーチや様々なプログラムのノウハウを生かして、多くの人に美術の魅力を伝えていくことを期待します。
- ・専門人員の確保について、中長期的な視野を持ちながら取組を進めてください。

横浜美術館 令和6年度指定管理業務・行政評価シート

【事業目標4】諸活動の基盤を整備し、社会情勢の変化に対応できる施設運営を行います。

【評価できる点】

- 施設の適切な管理・運営により、管理瑕疵に起因する事故が発生しなかったことを評価します。
- オウンドメディアへのリーチ数は、横浜トリエンナーレの開催期間と2月の全館オープン時に特に上昇が見られ、年間目標を大きく上回りました。
- 多様な来館者を迎えるための館内環境を整備し、「自由でひらかれた美術館」の姿を各メディアを通して発信しました。実際にお客様連れのお客様がグランドギャラリーで過ごしている姿を目にする機会も多く、目指していた姿を実現できていることを評価します。

【より一層の取組を期待する点】

- 大階段での展示方法等について、引き続き検討を進めてください。
- 来館者アンケート等を通じて浮かび上がった運営上の課題を整理し、よりよい施設運営や来館者満足度の向上につなげていくことを期待します。

【事業目標5】横浜市の中核的な文化拠点として、地域の様々な施設や団体と連携し、地域社会のポテンシャルの向上に貢献します。

【評価できる点】

- 近隣イベントへの協力やユニークベニューの受け入れ等、文化観光拠点計画の取り組みの推進と各所との連携をおこない、地域の魅力向上にぎわい創出に大きく寄与しました。
- 地域企業や医療・教育等の幅広い団体と連携し、人々の日常に芸術を届けることで、心の豊かさや創造性を育み、地域全体の文化的な活力とつながりを深めました。

【より一層の取組を期待する点】

- 横浜美術館の令和6年度の首都圏認知率は36.2%となり、昨年度と比べて約5ポイント、長期休館に入る前と比べると約13ポイント低下しています。神奈川県内の認知率も前年度に比べて5ポイント以上減の54.1%となるなど、低下傾向にあることは否めません。通年開館となる今後は、引き続き幅広い層へ訴求するプログラムの立案など、首都圏、県内、横浜市内それぞれを意識しながら戦略的に認知率向上を図ってください。
- 交流や文化活動の拠点としての美術館が、人々にとってより身近に感じられるような場の活用を期待します。

総括

- 令和6年度は、大規模改修のための長期休館を経た横浜美術館が全館オープンするという重要な年となりました。トリエンナーレ閉幕後の実質的な休館期間を活用し、「じゅうエリア」の一体的な運営に向けた整備、リニュアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」展の開催、アトリエプログラムの再開など、全館を挙げて準備を行い、通常開館の体制を整えました。
- どんな人の居場所にもなる「ひらかれた美術館」の理念を実現させるために、「じゅうエリア」の整備を行ったほか、ソーシャルストーリーの作成、アウトリーチやアクセスプログラムの内容を充実させました。
- 収支では、前年度に引き続き文化観光拠点計画で文化庁からの補助金を得られたほか、全館オープン前の期間を活用したユニークベニュー収益の獲得、ミュージアムショップ運営形態の見直しによる効率化等により、収入増や効率的運営のための努力が行われました。
- 大規模改修や全館開館を経て確認された諸課題についても、適切なスケジュール管理のもと検証を進めてください。
- 教育普及事業を含めて、美術館が文化芸術の振興および普及に寄与し、文化芸術活動の裾野を広げるための存在であり続けることを期待します。
- 多様な方へのアプローチやハード・ソフト両面からのバリアの除去に努めることによって、どんな人の居場所にもなる「ひらかれた美術館」の実現、さらには文化観光拠点としてまちとつながり、発信力を強め、賑わいを創出していく魅力的な施設となることを期待します。